

# 西洋の丁稚

三遊亭円朝

青空文庫



エー若<sup>わか</sup>春<sup>はる</sup>の事<sup>こと</sup>で、却<sup>かへ</sup>つて可<sup>を</sup>笑<sup>かし</sup>みの落<sup>おとし</sup>話<sup>ばなし</sup>の方<sup>ほう</sup>が宜<sup>い</sup>いと心<sup>こころ</sup>  
 得<sup>え</sup>まして一<sup>せき</sup>席<sup>かざ</sup>伺<sup>が</sup>ひますが、私<sup>わたくし</sup>は誠<sup>まこと</sup>に開<sup>かい</sup>化<sup>くわ</sup>の事<sup>こと</sup>に疎<sup>うと</sup>く、旧<sup>きゆう</sup>弊<sup>うへい</sup>  
 の事<sup>こと</sup>ばかり演<sup>や</sup>つて居<sup>を</sup>りますと、或<sup>あ</sup>る学<sup>が</sup>校<sup>がう</sup>の教<sup>けう</sup>員<sup>いん</sup>さんがお出<sup>い</sup>  
 でで、お前<sup>まへ</sup>はどうも不<sup>ふ</sup>開<sup>かい</sup>化<sup>くわ</sup>の事<sup>こと</sup>ばかり云<sup>い</sup>つて居<sup>ゐ</sup>るが、どうか然<sup>さ</sup>  
 うなく開<sup>かい</sup>化<sup>くわ</sup>の事<sup>こと</sup>をしたら宜<sup>よ</sup>からう、西洋<sup>せいやう</sup>の事<sup>こと</sup>をした事<sup>こと</sup>があるか  
 と仰<sup>おつ</sup>しやいました、左<sup>さ</sup>様<sup>やう</sup>でございませう、マア続<sup>つ</sup>いた事<sup>こと</sup>は西洋<sup>せいやう</sup>のお  
 話<sup>わ</sup>もいたしましたが、まだ落<sup>おとし</sup>話<sup>ばなし</sup>はいたしませんと申<sup>まう</sup>したら、  
 おとしばなし<sup>おとしばなし</sup> 落<sup>おとし</sup>話<sup>ばなし</sup>で極<sup>ごく</sup>面<sup>めん</sup>白<sup>おもしろ</sup>い事<sup>こと</sup>があるから一<sup>せき</sup>席<sup>かざ</sup>教<sup>けう</sup>へて上<sup>あ</sup>げようといふの  
 で、教<sup>を</sup>はり立<sup>た</sup>てのお話<sup>わ</sup>しでございませう、拙<sup>まづ</sup>い処<sup>ところ</sup>は幾<sup>いく</sup>重<sup>へ</sup>にもお詫<sup>わび</sup>をい  
 たして弁<sup>べん</sup>じます。

西洋の子供は至て利口だといふお話で。或る著述をなさる  
お方がございます。是はやはり日本でも同じ事で、著作でもな  
さる方は誠に世事に疎いもので、何所か気の附かん所があります、  
学問にもぬけてゐても何かに疎いところがあつて、伊太利  
の著作家に至つて流行の人があつて、其処へ書林から、本を  
誂らへまするに、今度は何々の作をねがひますと頼みに行きま  
する時に、小僧が遺物を持って行くんです。処が西洋では遺  
物を持つて行つた者に、使賃といつて名を附ける訳では  
ないが、弗の二ツ位は呉れるさうでございます。然るに其の作  
者先生、物に氣の附かん先生でございまして、茫然として  
居りますから使賃をやらない。書林の小僧が怒つて、あんな

吝しみつたれ 齷やつな奴はありやアしない、己おれが行く度たびに使つかひ賃ちんを呉くれた  
 事がない、自分の家うちならばもう行きやしないと思つても、奉公ほうこう  
 の身みの上うへだから仕方しかたがなく、マア使つかひにも行かなければならない。  
 そのつぎ  
 其次そのつぎ行つた時に、腹はらが立ちましたからギーツと表を開けて、廊ら  
 下うかをバタ／＼か駈出けだして、突いきなり然しよさい書齋ひらの開ひらき戸どをガチリバタリ  
 と開あけて先生そぼの傍そばまで行ゆきました、先生は驚おどろいて先だれ「誰だれだえ。小  
 「へえ今こんにち日は。先なん「何なんだ、人かきものが書物かきものをして居ある所ところへどうもバ  
 タ／＼あ開あけちやア困まうしるぢやアないか。小「へえ、宅うちの主しゆじん人が  
 先生へ是これをあげて呉くれろと申まうしましたから持もつて参まゐりました。先  
 「ウム、マア夫それは宜いいがね、どうもお前まへ何なんぼ使つかひだつて、余あんまり無ぶ作さ  
はずぎ法過はるぢやアないか、能よく物ものを弁わへて見みなさい、マア私わたしの家うちだか



だから受納じゆなふいたします。先「中々旨なかなかまいねえ……是これで帰かへりま  
 しても宜よろしうございますか。小「マアく一ちよつと寸待まつてお出いで、ポ  
 ケツトへ手を入れて空からツポウではありますけれども、紙たを疊たんで、  
 小「これはお使つかひちん賃ちんだよ、是これからお忘れでないよ。これで先生  
 も使つかひちん賃ちんをやる事おほを覚え、又また小僧こぞうさんも行ぎやう儀ぎが直なほつたといふ  
 お話わで、誠まことに西洋あちらの小僧こぞうさんは狡かうくわつ猾わつで怜悧りこうの処ところがありますが、  
 日本こちらの小僧こぞうさんは極穩ごくをんたう当たうなもので。



# 青空文庫情報

底本：「明治の文学 第3巻 三遊亭円朝」筑摩書房

2001（平成13）年8月25日初版第1刷発行

底本の親本：「定本 円朝全集 巻の13」世界文庫

1964（昭和39）年6月発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年6月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

# 西洋の丁稚

三遊亭円朝

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>